

神奈川県開成町の概要

開成町は、神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、東京から70km圏内、横浜からも50kmの距離にあり、町域は東西1.7km、南北3.8km、総面積は

6.55km²と県内で一番面積が小さな町です。

また、本町の東には酒匂川が流れ、西には箱根外輪山、南には相模湾、北には丹沢山塊を望むなど、自然に恵まれたなだらかな平坦地です。

限られた土地を有効に活用し、良好な生活環境を構築するため、町域を北部地域・中部地域・南部地域の3つに区分し、計画的な土地の利用を進めています。

《北部地域》

全域が市街化調整区域であり、そのほぼ全域が農業振興地域に指定されており、優良農地の保全に努めるとともに、都市近郊農業地帯として土地利用を進めています。

《中部地域》

ほぼ全域が市街化区域であり、住宅地を中心に、商業施設、工業施設、公共施設などが集まり、生活圏における多面的な役割を担っています。

《南部地域》

小田急線開成駅を中心とした広域交流拠点として新市街地の形成を進めています。町内の北部地域の農業田園振興地域を活用したあじさいまつりは町の一大イベントです。

開成町のRESAS等を活用した地域経済の分析結果

地域経済の生産分析

生産分析を見ると、町全体の総額1,144億円で非鉄金属180億円、住宅賃貸業118億円、その他製造業98億円となっている。」地域経済循環図で見ると、域内の産業によって「生産」された付加価値額574億円で、神奈川県内自治体で17番目に高い割合で町村では、8番目となっている。第1次産業は少なく、第2次産業は171億円、30%を占める。第3次産業は403億円、70%を占める。

「分配（所得）」は、雇用者所得は地域外からの流入、その他所得ともに域外から流入している。分配された所得が域内でどのように使われているかを示す「支出」は、民間消費額は地域外からの流入、民間投資額・その他支出は地域外に流出していることがわかる。

人口の動き

人口構造を見ると、総人口は18,301人【2021年1月】となっており右肩上がりが増加し、神奈川県内でも伸び率は上位である。また、生産年齢人口は10,125人（59.51%）【2015年】から8,382人（49.9%）【2040年】に減少することが推計されている。

町民の動きを見ると、平日、休日ともに神奈川県内からの滞在者を占めている。

人口増減の要因を見ると、2002年度より社会増減・自然増減共にプラスで推移している。

転出入については、転入は増加傾向であり、直近では小田原市や南足柄市の隣接市からの転入が多い。

地域の産業状況

町の総企業数は（2016年）485社、総従業員数は3,374人、総売り上げは475億円である。全産業の構造の付加価値額（大分類）を見ると、製造業が47億円と最も大きく、さらに製造業の構造を見るとゴム製品製造業の事業所数が3事業所と最も多いことが分かる。続いて印刷・同関連業の事業所数が2事業所となる。

産業別特化係数では、ゴム製品製造業の付加価値額及び従業者数の特化係数が特に高くなっており、他地域に比べて優位性があるといえる。一方、付加価値額の推移では、右肩下がり推移していたが、2015年を境に右肩上がりが増加傾向にある。

観光入込状況

町の入込客数は、目的地別来訪数で見ると開成水辺フォレストスプリングスが一番多く、次に開成水辺スポーツ公園となっている。その他、町のイベントとして来訪者が多いのは、開成町あじさいまつり、あしがり郷瀬戸屋敷ひなまつり、開成町阿波おどり、開成町納涼まつりの順となっている。来訪者のうち外国人は、2020年1月では378人、同年2月で234人となっている。来訪先の詳細は確認ができない。

流動人口・消費の傾向

観光地の少ない開成町では、流動人口の移動は少なく、イベント開催時により一時的に流動人口が増加している。また、消費の傾向としては、町としてのデータはなく、神奈川県内のデータから見ると、生鮮・惣菜が一番多く次いで、加工食品、飲料・酒類となっている。

分析結果による特徴と課題

- ・町南部地区への転入者が増加しており、人口増加が続いている。
- ・昼間の流出人口が近隣市町に比べ多い傾向にある。
- ・既存のゴム製品製造業の付加価値額及び従業者数の特化係数が特に高いが、付加価値額の伸び悩みである。また、町絵の新たな企業誘致の土地がない状況である。
- ・町のイベントをうまく活用し、外国人をはじめ観光客の誘客や町の自然環境をPRできる可能性がある。